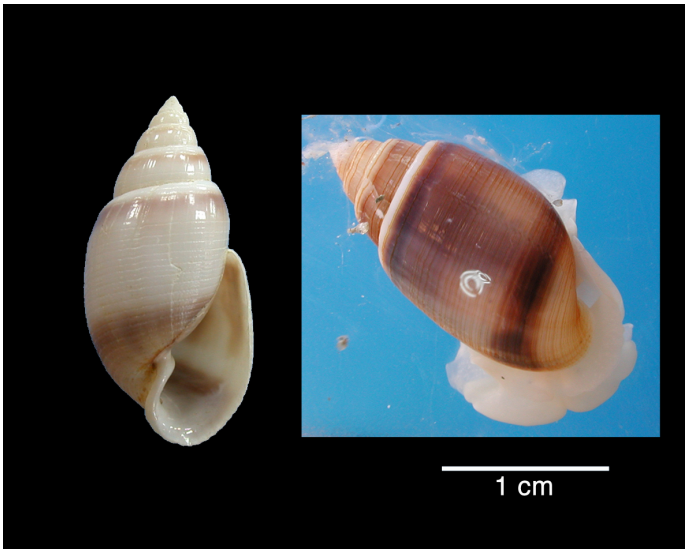
オオシイノミガイ　*Japonactaeon sieboldii* (Reeve)

【選定理由】

本種は、湾口部から外洋に面した海岸の潮間帯下部から潮下帯の砂底に生息する。県内では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯の貝類相が著しく単純化している。本種も明らかに生息場所、個体数とも減少している。1999 年からの 3 回（30 地点以上）、知多半島伊勢湾側から三河湾湾口部の海域をドレッジにより調査した結果、知多半島伊勢湾側より少数の生貝が採集され（木村, 2000）、年による個体数の変動は大きいが、2015 年の調査でも引き続き生息が確認された。前回（EN）よりランクダウンするべき種と評価された。



南知多町内海沖水深 7 m(ドレッジ), 2000 年 7 月 27 日,
木村昭一採集

【形　態】

殻長約 20 mm で、殻は長卵形、薄質で光沢がある。境界の不明瞭な褐色の色帯が 2 本あり、殻表全面に細い螺溝をめぐらす。

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように、生息場所、個体数が減少し、生貝は個体数が少なく、生息する範囲も狭い。県内では潮間帯で生貝が確認されていない。

【世界及び国内の分布】

日本、中国大陸、国内では東北地方～九州に分布する（木村, 2012）。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したように潮下帯の環境は悪化しているので、本種の生息場所、個体数とも激減したと考えられる。生貝は透水性の高い潮下帯（水深約 10 m まで）の砂底に限定され、生息範囲が狭い。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【特記事項】

葉山しおさい博物館（2001）では相模湾の個体群が消滅寸前にランクされていたが、年による個体数の変動は大きいが、近年回復傾向が確認されている（木村, 未発表資料）。

【引用文献】

葉山しおさい博物館, 2001. 相模湾レッドデータ　貝類, 104pp.
木村昭一, 2000. 伊勢湾･三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, (26): 18–20.
木村昭一, 2012. オオシイノミガイ, p. 80.in：日本ベントス学会（編）干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.

（木村昭一）